

市長定例記者会見 ２００８年８月１２日

・日 時 平成２０年８月１２日（火）午前１１時００分～

・場 所 本館３階第１会議室

・記者数 １３人

議題 第３回女子野球ワールドカップ（２００８ 松山）について

平成２０年度松山市総合防災訓練について

それでは、始めに「第３回女子野球ワールドカップ」についてご説明させていただきたいと思います。すでにご案内させていただいているとおり、女子野球としては世界最高峰の日本初開催となる「第３回女子野球ワールドカップ」が、８月２４日から２９日までの６日間、世界各地から８つの国と地域が参加し、本市で開催されることになりました。このような大会が地方都市で開催されますことは極めて珍しいことでございますので、本市といたしましては選手の方々が、日ごろの練習の成果を思う存分発揮していただけるよう、松山ならではの「おもてなし」と「お接待」の心を持って温かくお迎えしたいと思います。そして、ここ松山で女子野球ワールドカップが開催されたことが、本当に良かったという思いを抱いて帰国の途についていただけるよう、市民の皆さんと一緒に本大会を大いに盛り上げてまいりたいと思います。具体的には資料にありますとおり、試合に先立ちまして８月２２日、２３日の両日に市内の８つのブロック公民館を中心に、参加選手と地域住民や子どもたちとの各国ごとの交流イベントを開催することとしておりまして、地域に伝わる伝統芸能や食文化を通じた文化交流、またスポーツ交流などを行い、心から選手を歓迎し、健闘を祈りたいと考えております。参加する子どもたちにとりましても国際理解教育につながるのではないかと期待をしているところでございます。また８月２５日には開会式に先立ちまして、俳人正岡子規が松山の地に伝えた明治時代の野球である「の・ボール野球」紅白試合を開催し、大会に花を添えることとしています。

次に「平成２０年度松山市総合防災訓練」についてご説明させていただきます。この総合防災訓練は、９月１日の防災の日を含む８月３０日から９月５日までの防災週間の前に、毎年実施しておりまして、防災関係機関をはじめ、本市と協定を結んでいただいている民間事業所や自主防災組織などが参加して行う大規模な訓練でございます。今年度は８月２８日から２９日の朝までの訓練で、特徴といたしましては、メイン会場の三津浜小学校では、総合防災訓練初の試みとなります夜間訓練と全国的には極めて珍しい避難所運営訓練を実施いたします。まず夜間訓練では、夜間・早朝を問わず発生する地震などの災害に対し、迅速かつ的確に対処するため、防災関係機関の照明や応急対応用の照明のもと各種訓練を実施し、災害対応力の向上を図ります。次に避難所運営訓練では、今年３月に作成した避難所運営管

理マニュアルに基づいて、指定避難場所である三津浜小学校体育館を使用し、避難住民を主体とした避難所運営を翌朝まで実施いたします。すなわち一泊するということです。そのほか市内全域を訓練会場に見立て、事業所や施設、地域住民などが参加し、市内11カ所で地域や実情に応じた訓練を実施いたします。従いまして、今年度の松山市総合防災訓練の規模は、過去最大であった昨年の参加機関38機関、参加人員2,000人を大きく上回る56機関6,000人以上の参加となります。本市といたしましては、これまでも全国に先駆けての公費による防災士の育成や事業所・大学生による機能別消防団員の採用など、本市独自の防災対策や自主防災組織の拡充に取り組んでまいりましたが、引き続き市民、事業所、そして地域と行政が一体となった総合防災訓練を実施するなど、災害に強い安全で安心なまちづくりに、更に努めてまいりたいと思います。

議題関係については以上ですが、この場をお借りして「渇水対策本部の設置」について発表させていただきたいと思います。これまでの渇水対応につきましては、「松山市公営企業局渇水対策委員会」で協議し、節水の呼び掛けや第1次減圧給水などを実施してまいりましたが、水源状況や今後の気象情報などを総合的に考えた場合、渇水対策本部を設置すべきであると判断いたしました。そこで明後日、14日に渇水対策本部会議を開催し、全庁を挙げての対策について協議・決定することといたしております。少しこの状況を説明させていただきますと、昨年は梅雨入り前の早い段階から渇水対策本部を立ち上げていますが、平成14年は9月2日に渇水対策本部を立ち上げています。実はこの年は10月、11月、台風シーズンも含めて少雨が続きまして、12月に入った直後に、あと1日、2日雨が降らなかったら給水制限ということを考えてところまで追い詰められていた時期でございます。そのときは、記憶をたどると本当にあと1日、2日という段階で大量の降雨に幸いにも恵まれまして、事なきを得たという経験がございます。当時の状況と比べますと、地下水とダムの数値でございますが、ほとんど同じような状況です。ただ若干違うのは、平成14年はダムの貯水率が59.3、今年は68.9でプラス10ポイントぐらい多いのですが、地下水が、当時3.63メートル、今年が4.57メートルで地下水がむしろ悪いという状況でございます。このときも早めの対応に終始してまいりましたが、このときよりも更に早く手を打つということで、今年度は特に長期予報で今後2週間ぐらいはあまり降雨に恵まれないだろうという予報も出ていますし、9月単体の予報につきましても少雨傾向の可能性が高いというような気象庁の予報が出ておりますので、昨年以上に早めの対応に終始して市民の皆さんにも節水にご協力をいただきながら、なんとか今回も乗り切っていくべく全力を尽くしていきたいと思います。

それでは、本日の議題と渇水対策本部の設置の詳細につきまして、担当部局の方から説明させていただきますので、よろしくお願いいたします。

(質問)

この早い段階で渇水対策本部を設置するという意図は。

(市長)

過去の教訓もあるのですが、まず今年の特徴は、梅雨の期間にある程度まとまった降雨に

恵まれたのですが、7月、8月の降雨量は平成6年の大渇水とほぼ同程度の量の恵みしかありません。なおかつ気象庁の中期的、長期的な予報を聞く限り、天候のことですから今後はどうなるか分かりませんが、まとまった雨を期待できないということを想定しておく必要があるということ。もう1つは、ダム貯水率は現在68%ありますが、地下水は危険水域に近づいています。5メートルを想定しているのですが、それに近づいています。昨年との大きな違いですが、昨年はダムの水は少なく地下水は比較的余裕がありましたが、今年の特徴は逆になっていまして、ダムの水は昨年ほどではありませんが、地下水が平成6年並になってきています。本市の水源はこの2つしかありませんので、その辺りの状況をかんがみて、この時点で早めの対策を打つべきという判断をしました。何としても、断水だけは避けたいということを念頭に置いています。

（質問）

現在、市民への呼び掛けを続けていると思うが、あらためて市民に対し、どういうことを呼び掛けたいか。

（市長）

ちりも積もれば山となるではありませんが、一人一人の積み重ねが大変大きな効果を発揮します。これまでも本市の広報、それから各マスコミの皆さんにもご協力をいただきまして、広報に努めてまいりましたけれども、引き続いて広報活動は更に強化していきたいと思えます。すでに本庁や支所、市関係施設のバルブの絞り込みも行いまして、また大口需要者あるいは工業用水利用者に対しての節水依頼も行っています。それからかなり早めだったのですが第1次の減圧給水も実施しましたので、とにかく何事もないとすればそれでいいのですが、最悪の事態を常に想定しながら早めの対応を引き続き行ないたいと考えておますので、市民の皆さんにもご協力をいただきますようお願いいたします。一方、プールの使用もある程度の段階で考える時期が来ると思うのですが、できれば9月上旬に入ってすぐに中学生の大会などがあり、子どもたちはその日に向かって一生懸命練習をしておりますので、大会だけはなんとか開催できるよう配慮したいとは思っています。ただ一般利用につきましては、全部一斉にではなくて、例えばまず市総合コミュニティセンターから休止をお願いするとか、そういったことは想定しておきたいと思えます。

（質問）

現在の状況が続くと、いつごろをめぐりにプールの閉鎖をするのか。

（市長）

やはり8月の下旬ころには考える必要が出てくると思います。中学生の大会が9月2日に松山中央公園のアクアパレットまつやまで開催される予定なので、これは何とか実施させてあげたいと思っています。

（質問）

市総合コミュニティセンターのプール休止は市民の一般利用を休止するのか。それとも大会の開催を休止するのか。

（市長）

プールそのもの休止です。現段階では、いつからということは全然決まっています。天候次第ということです。

（質問）

今年の地下水位の低さについて、原因は何が考えられるのか。

（市長）

今回の場合は、やはり梅雨明け以降ほとんど雨が降っていないので、その影響がすべてだと思っています。それほどここ数年で地下水の状況が大きく変わっているとも思えないのですが、ちなみに降雨状況が7月につきましては、石手川ダム流域の平均雨量が実は平成6年を下回っています。平成6年の大渇水の雨量は7月が61ミリだったのですが、今年の7月は37ミリしか降っていません。それから8月も今日現在平成6年を下回っています。平成6年は8月いっぱい17ミリ、今年は今日時点で8ミリということですから、7月、8月の降雨量がいかに少ないかということがこの数字でお分かりいただけるのではないのでしょうか。2カ月間まったく降雨がないと言ってもいい状態ですので、このことが地下水低下の一番大きな原因だと考えています。

（質問）

このまま雨が降らなければ段階的にいろいろな対策を立てていくと思うが、断水を避けることを前提にどのようなことを実施するのか。

（市長）

まず、市有施設のプールの利用制限ということは、当然最初の段階で視野に入ってきます。それから第2次減圧給水というのをどこかの時点で実施する必要があると。あと同時並行ですが、常に市民の皆さんへの節水協力依頼というものを引き続き行なっていくと、だいたいこのような点が主になってくると思います。

（質問）

この機会にというわけではないが、松山分水の意見交換会などの予定はあるのか。

（市長）

今の段階ではまだ、相手のあることですから見通しは立っていません。

（質問）

毎年のように渇水や水不足ということで、市の一番の課題だということは分かっているが、やはり抜本的な対策が必要になってくると思われる。あらためてこの問題については。

（市長）

本当に松山はこうした渇水と常に背中合わせであるという現実と、それからもう1つ心配しているのは、やはり水源が石手川ダムと地下水の2つしかないという水源の弱さ。こうしたことを考えると50万都市としては、どうしてももう1つの新たな水源を長期的に確保する必要性があるということは、これまでも繰り返し申し上げてきたところです。市民の皆さんにもぜひご理解いただきたいのですが、水は簡単に確保することができません。それは相手にも事情があり、費用対効果の問題もありますので、総合的に考えて慎重に進めなければ決して確保できるものではないということをあらためてお知りおきいただきたいと思います。市としても与えられた条件の中でこれからも全力を尽くしてまいりますので、ぜひ市民の皆さんも新たな水源が必要であるということと、確保するには相当なハードルを越えなければいけないというこの2点を共有していただけたらと心からお願いを申し上げます。

（質問）

ふるさと納税制度について、市にゆかりのある著名人に呼び掛けはしているのか。

（市長）

我々はともかく全国一斉に始まった制度なので、ふるさとにゆかりの人々をお願いをするしかありません。そのため、東京に職員を配置してきめ細かい対応をしていく予定なのですが、こればかりは相手の気持ち次第なので今の段階では何とも言えません。

（質問）

「『坂の上の雲』のまちづくり」について、今月末からスペシャルドラマ『坂の上の雲』の松山での撮影が始まると思うが、これまでのまちづくりについて、手応えをどう感じているか。

（市長）

いろいろな面があると思うのですが、まずは当初9年前に「『坂の上の雲』のまちづくり」は公約として掲げた上で選んでいただいたのですが、そのときの現実と今の現実を比較すれば、もう比較のしようがないほど関心度が高まっているということを実感しています。もちろん皆さん全員ではありませんが。それから全国放送のドラマということになれば、一層それが拡大されることは間違いないと思いますけれども、そういう意味で一番うれしいのは地域ごとに「坂の上の雲」を活用して、ふるさとの自分のまちに眠っている資源を掘り起こしてみようとか、そういう市民の活動が次から次へ立ち上がっているということは心強い点だと思います。それからもう1つは財政的なことにつきまして、三位一体改革で地方は資金的な面で、わたしに言わせれば国の借金を地方に押し付けられたと捉えているのですが、その

分いくつかはアイデアを絞って地域再生事業に組み入れることによって、多少取り戻せたと認識しています。本来であれば補助制度が見込めない事業も「『坂の上の雲』のまちづくり」というパッケージという位置付けの中で交付金というものを得ることができましたので、その金額でいえば十数億円の効果があつたのかなと思っています。そしてそれらの事業を活用できたことによって、同時並行でいろいろな事業を進めることができました。これがなければ、ほとんどが市の単独事業になりますから、当然複数年にまたがって事業展開しなければいけないところだったと思うのですが、まちづくり交付金を活用した地域再生事業とし一気に並行して行なえた、この事例がロープウェイ街の整備であり、ロープウェイ駅舎の改築であり、道後温泉本館周辺の整備、これをほぼ同じ時期に坂の上の雲ミュージアムも含めて整備できたということで、目に見えるものも生まれつつあるのではないかと思います。

（質問）

パッケージによってさまざまなことが一気に整備できたということが、他の都市と違うところなのか。

（市長）

そうです。例えばロープウェイ街の整備やロープウェイ駅舎の整備は本来なら市の単独事業で補助金はゼロです。そうすると当然3年間に分けて資金計画を立てるとか、そのような事業展開しかできなかったところ交付金が事業費の4割付きますから、当然市の単独負担が減ります。その減った分を目いっぱい活用して一気に整備が進められたということです。

（質問）

やり残していることはあるのか。

（市長）

まだまだずっと続きます。テーマが非常に大きいですし、何も小説に限定する話でもありません。よく言うのですが「『坂の上の雲』のまちづくり」は地域に眠る資源をもう一度掘り起こして、磨いて、つなぎ合わせていこうというまさにまちづくりの原点の考え方のメッセージにほかならないと思っていますから、まだまだこれからも続いていくと思います。またその時代に絡んだ先人たちの物語というものは松山には数多く残っていますので、それらをきっかけに、ゆかりの地がふるさとの魅力発見へのエネルギーとして使っていただけるのではないかと。それともう1つ加えるならば、当然観光客の増加というものが見込まれると思いますので、むしろそれを一過性に終わらせないためにどうするかということを、これからは行政だけが考えることなく、観光に関連するサービス産業にかかわるタクシーやバス、飲食店、商店街、旅館などの人々も訪れた人が気持ち良く滞在していただけるような空気を作れるかどうか。せっかく増えたチャンスを次につなげられるかどうかの分かれ目になると思いますので、こうした取り組みはまさにこれから始まっていくと思います。